

5期目スタート 県政課題に全力で向き合う

持続可能な島根を目指して新たな一歩



得票数 6,264票 (当選・6位/13人中)

島根県議会議員 はくいし恵子

《プロフィール》

●1949年松江市北堀町生まれ。北堀小学校(現・城北)、松江第一中学校、松江北高校、県立静岡女子大学(現・静岡県立大学)を卒業。●1975年島根県職員となる。福祉事務所、健康福祉センターなどにケースワーカーとして勤務。約20年間福祉行政に携わる。●2006年10月島根県を退職し、2007年4月県議会議員選挙(松江選挙区)に初当選。(現在5期目)●女性問題を考える市民活動として、性暴力被害者ワンストップ支援センター「さひめ」支援員、精神障がい者通所施設「アクティブきたほり」第三者委員、社会福祉法人島根東光学園理事を務める。

4月9日投開票の島根県議会選挙において、6、264票(6位)を頂き、5期目のスタートを切る事ができました。多くの皆様に信任頂いたことをしっかりと胸に刻み、今後の4年間全力を尽くしてまいります。

振り返れば4期16年は瞬く間に時がたち、そして目の前の新たな課題に懸命に立ち向かう日々でした。その全てが良い結果になることはなく、悔しい思いも多々ありました。今後もそういうことが続いていくのだろうと思いますが、その一つひとつに誠実に向き合い、丁寧に話を聞き、少しで

も良い方向に向かえるよう努力します。5期目の選挙は今まで一番厳しい選挙でした。市議会議員として活躍されていた方、市長選に挑戦された女性、国会議員秘書経験者と実力者ぞろいの新人が立候補され、長年の実力者も含め誰がどうなるか全く読めない状況でした。

そんな中、私も少なからず不安と動揺がありました。しかし、本来選挙とはそういうあるべきもの、と気持ちを切り替え、できることは全て丁寧にやろうと決心して臨みました。女性のみの気の置けない選挙スタッフ、歴代組合役員、同級生、後援会など、様々な、そして心強い方々に支えられ頑張ることができました。

総決起集会では石見神楽も登場、蛇の首を取るパフォーマンスもあり、それを見た人からは「蛇の首を取ったんだから、もう絶対大丈夫!」と励まして頂きました。選挙本番では、支援労組の皆さんや熟練のうぐいすさん、経験豊富な隊長さんに支えられて、安心して戦い抜くことができました。関わって頂いた全ての皆さんに感謝申し上げます。

早いもので、5期目も半年が過ぎようとしています。女性議員が2名増え、年齢も若返りました。こういった変化は今後島根県議会にどんな風を吹かせるのか、また私も含め議員経験者も積んだ議員がどうリーダーシップをとっていくかが問われています。じっくりとその状況を

見極め、県議会がより良い方向に向かっていけるよう、私も全力を尽くしたいと思えます。皆様には今後とも見守って頂き、折々にご意見もいただければ幸いです。



発行者 島根県議会議員 はくいし恵子 2023年9月21日発行 拡大版 VOL.35

はくいし事務所 〒690-0882 松江市大輪町414-12 TEL・FAX 0852-23-0880 HPアドレス http://www.k-hakuishi.sakura.ne.jp/office/ ※是非、お立寄りください。

5月臨時議会 中山間地域・離島振興 特別委員会副委員長に選出 防災地域建設委員に所属



4月9日の県議選で、今期の新しいメンバーが決まり、5月16、17日に臨時議会が開かれました。会派構成は、自民党議員連盟(第一会派)14名、ネクスト島根(第二会派)12名、民主県民クラブ(第三会派)5名となりました。我が会派は、益田の平谷議員が引退、代わって出雲の岸議員が加わり、変わらず5人で会派を組みました。

県議会が始まって以来女性議員が5名となりました。16年前0人から2人、その後1名が加わり、3名となりました。今回当選のお二人は一人がネクスト島根、一人は公明党県議団の所属です。民主県民クラブが増えなかったのがとても残念です。

初日の議長選挙は、今回もお約束の第一会派からの選出。私たちも色々あって相乗りしましたが、選挙とは言えないな、と思っていました。規約を変えて指名推薦でもいいのではないかと、思ったりします。

二日目 中山間地域・離島振興特別委員会副委員長に選出 防災地域建設委員に所属

4月9日の県議選で、今期の新しいメンバーが決まり、5月16、17日に臨時議会が開かれました。会派構成は、自民党議員連盟(第一会派)14名、ネクスト島根(第二会派)12名、民主県民クラブ(第三会派)5名となりました。我が会派は、益田の平谷議員が引退、代わって出雲の岸議員が加わり、変わらず5人で会派を組みました。

調整されたメンバーが出されました。委員会は過去何回か選挙になりましたが、今回は何事もなくでした。民主県民クラブでは「環境厚生委員会」委員長に須山議員が、「農林水産商工委員会」副委員長に岩田議員が就きました。私の所属委員会は「防災地域建設委員会」です。少し構成が変わりましたが、2年ぶりの建設委員会となります。



また、監査委員、隠岐広域連合議会、境港管理組合議会の委員は残念ながら議席をもらえませんが、

はくいし恵子とともに Facebook [QR code]

# はくいし恵子の県議会報告



## 6月県議会

一般質問から抜粋  
(6/12～7/6)

## 2月県議会

代表質問から抜粋  
(2/14～3/3)

23年2月議会が2月14日から3月3日まで開催されました。4年間の集大成としての会派代表質問でした。今後の島根県のあるべき姿、しなければならぬことを見つめ「地域経済循環について」「県民の暮らしを守ることに」など5項目の質問をしました。

### 循環経済の確立を

質問：地域経済循環について  
(1)部局の連携が必要な課題を見つけ、取組みを促していく部署の必要性を伺う。  
【知事】部局を超える立場は、知事・副知事。その補佐は政策企画局であり、三者が連携して取組む。部局内の連携は部長・次長でマネジメントし、縦



質問：島根を誇れる子どもを育てることについて  
(1)島根を誇れる子どもを育てる教育について考えを伺う。  
【教育長】育った地域について子どもの頃から学び、島根の未来を考え、将来の自分の役割に思いをはせる、その結果として島根に住み続けたい、戻りたいと思う若者がもっと増えることを期待している。  
(2)自分の頭で考える子ども

も育てること、誇れる島根の宝を伝えることでやがて帰ってきてくれることを期待したいが如何。  
【知事】産業界、市町村と連携して暮らしやすい地域づくりに取組む。  
質問：県民の暮らしを守るために必要なことは。  
(1)様々な取組みが行われている地域交通手段の継続をどう支援していくのか伺う。  
【地域振興部長】県内外の先進的な取組みを紹介するなど地域が抱える交通課題の解決につながるよう対応する。  
(2)中山間地域の介護福祉サービスをどう構築していくのか伺う。

### 若者定着に支援を

【健福部長】来年度から、人材の確保、育成、経営の安定化等を一元的に支援する訪問看護支援センターを開設する。  
質問：若者の定着について  
(1)県内企業の賃上げの可能性をどう考えるか。また支援策はあるか。  
【商工労働部長】小規模な企業にとつて非常に難しいが、生活の安定や人材確保の面から賃上げを行わざるを得ない状況。県も資金繰りや設備投資等を支援している。  
(2)若者が暮らせる給与水準の確保とジェンダー平等の推進について伺う。  
【知事】県も努力している

が、国も物価上昇に対応して売り上げを確保できるような取組みを進めてほしい。ジェンダー平等については、取組みをしっかりと進め、性別に関係なく誰もが住みやすく働きやすい環境を作っていく。  
質問：島根を支える人づくりについて  
(1)関係部局が地域の好事例を実際に見て、県全体に広げることについて考えを伺う。  
【知事】地域に積極的に足り組まねばならない課題が多く残っている。引き続き「笑顔で暮らせる島根、人口減少に打ち勝つ島根」を実現するために力を尽くしていく。

### 子どもを性暴力から守る体制を

質問：子どもに対する性暴力の防止について  
(1)被害者を有効に支援できる体制をどう整えるのか伺う。  
【教育長】安全の確保を最優先にSC（スクールカウンセラー）を緊急派遣し、福祉との連携が必要であればSSW（スクールソーシャルワーカー）を派遣する。県教委への相談であれば、SCの緊急派遣、警察との連携を図る体制が整っている。

6月議会が6月12日から7月6日まで開催されました。私は一般質問に立ち、知事の掲げる「笑顔で暮らせる島根」であるために大切なことは何か、という観点で4点の質問をしました。  
質問：子どもに対する性暴力の防止について  
支援センター「さひめ」や「たんぽぽ」の紹介もしている。  
(2)保育所での被害防止のための職員への研修や保育所に特化した協議会の設置について考えを伺う。  
【健康福祉部長】今年度から管理者等に国の手引き等を活用して所内研修をすることや性暴力防止のルールを作ることを様々な機会にお願いする取組を始めた。県が行う保育士研修でも子どもの人権

に配慮した保育の重要性について学んでもらうこととした。今後の取組みについて協議会の設置も含め検討する。  
質問：ICT教育と学校図書館教育について  
(1)進んでいる頓原中の考え方やノウハウを他の学校に波及させるべきと考えるが如何。  
【教育長】活用には差がある。県と市町村教委で協議会を設置、併せて機器担当と指導主事等による連絡会議を開催。また今年度は中堅教諭対象の研修で事例発表を行う。好事例が県内に広がるよう支援していく。  
(2)学校図書館教育にICT教育も含めて一層推進

して欲しいが如何。  
【教育長】両者は目的が共通する点が多い。図書館の書籍・文献等と比較しながら情報の信憑性の判断等の力を育むこと、情報モラルについても学ぶことが必要。図書館活用教育はこれからも変わらず大切な役割を果たすよう取組む。  
質問：大型風力発電の設置について  
(1)住民の反対や不安が強い大型発電施設の設置に、当該自治体ももっと踏み込んだ権限が持てるよう全国知事会等で声を上げてほしいが如何。  
【知事】平成29年度から地元の見解が反映されるよう、理解を得ないまま設

置が進むことがないよう要望している。国の動きを注視しながら、全国知事も活用し、要望する。  
質問：島根原発2号機の再稼働について  
(1)60年を超える運転を認める法改正が行われたので、その条件下で再度再稼働判断をやり直すべきではないか。  
【知事】安全協定は運転期間の対象外。法改正は正

### 原発事故の避難計画にチェック

当な手段を経て民主主義の下でのルール変更。同意の撤回は協定上許容されないこと認識している。  
(2)原発から10km圏域で土砂災害警戒区域内の病院・福祉施設の災害対策をチェックして欲しいが如何。  
【土木部長】県が実施したもの以外は施設管理者が行う。県は管理者へ周知・注意喚起をし確認を促す。要望があれば関係部局と協議し、対応を検討する。  
(3)上記の病院・施設での原発事故避難計画の内容をチェックすることにつ



いて考えを伺う。  
【健康福祉部長】原発から30km圏内の病院・福祉施設には避難計画の策定をお願いしているが、内容確認や助言を行うことは実行性を高める上で有効。今後は計画の提出を依頼し、内容の確認や助言を行う等の支援に取組む。  
(4)上記の病院・福祉施設の責任者に定期的な避難訓練の実施について研修を行い、実施の有無の確認を行ってほしいが如何。  
【健康福祉部長】今後は各施設での実施状況を確認していきたい。また責任者には繰り返し訓練の重要性を説明する。またこうした取組みを継続していく。

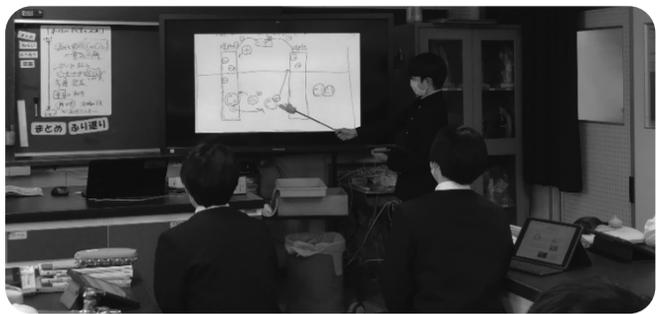
会派調査

選挙終了後、最後の会派調査をしようということになり、I-T活用授業が県内で一番進んでいるという頓原中学校、雲南市の「吉田ふるさと村」、地域包括医療を模索している奥出雲病院に伺いました。

I-T活用で先生も生徒もメリットに

頓原中では、前任の校長先生がI-Tに詳しくかつたこと、地域おこし協力隊の方がI-Tに精通されていたことから、現在の取組の基礎ができたこと、校長や教育委員会の人が変わっても理念や方法論をしっかりと引き継いでいること、協力隊の方が引き続き教育魅力化コーディネーターとしてリーダー的存在となっていることが大きいと感じました。

個人的には国語の授業での使われ方がとても興味深かったですし、理科の授業場面でタブレットに書き込むだけでなく紙に書いたものを写真に撮って共有する場面も目にし、生徒が自分のやりたい方法を選択できるのもいいと思いました。



授業参観もさせて頂きました。生徒全員が使いこなし、グループ学習にも生かされていること、感想や答えなどをタブレットに書き込むことで全ての生徒が取り残されず、授業に参加できているのも良い点だと思いました。

奥出雲病院では院長先生から地域包括医療の考えをお聞きしました。既に在宅診療センターを設置し、訪問診療、看護リハビリを行っておられますが、更に民間の訪問介護事業所や診療所と連携し「地域医療連携法人」を設立したいと努力を重ねておられました。

川本町の加藤病院も社会医療法人として、地域の訪問診療、訪問看護。退院後のリハビリなどを一手に担っておられますが、県内の中山間地域では、二次医療を担う地域の病院がこのように訪問系のサービスも担っていかねばならない時代に突入している、と強く感じます。

積極的な工夫で黒字をめざす

宿泊は新装した「青嵐荘」でしたが、この指定管理者も務めている株式会社「吉田ふるさと村」が2日目の調査先でした。

田村の人口減少や高齢化が進み疲弊する村の産業振興と雇用創出が目的だったとのこと。今は青嵐荘の運営と卵かけご飯専用の醤油「おたまはん」が有名ですが、「焼き肉のたれ」や「きねつきもち」といった食品加工が中心です。



三セクは赤字を出しても行政から補填されるといふ考えから、甘い経営になりがちですが、ここでは黒字を出せるよう様々な工夫を重ねておられました。小さくてもきらりと光る地域の取組がすばらしいと思います。

総合病院でも訪問診療や訪問リハビリを！

奥出雲病院では院長先生から地域包括医療の考えをお聞きしました。既に在宅診療センターを設置し、訪問診療、看護リハビリを行っておられますが、更に民間の訪問介護事業所や診療所と連携し「地域医療連携法人」を設立したいと努力を重ねておられました。

川本町の加藤病院も社会医療法人として、地域の訪問診療、訪問看護。退院後のリハビリなどを一手に担っておられますが、県内の中山間地域では、二次医療を担う地域の病院がこのように訪問系のサービスも担っていかねばならない時代に突入している、と強く感じます。



山王寺 棚田訪問

真菰で中山間地農業に活路を

以前、山王寺の棚田で真菰栽培をされている方の話を聞き、荒廃する水田の活用方法として良いのではないかと思ひ、質問の中で紹介したことがありました。

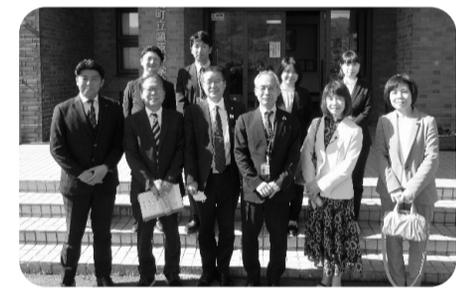
それを聞かれた農林水産部長（当時は次長）が、興味を持たれ広瀬の真菰栽培を見に行ったとのことなので、それなら元祖

また毎年出雲の「まこも神事」に合わせ講演会やシンポジウムの開催、円座やゴザを作るワークショップの開催していることを伺い、活発な活動が分かりました。今後も更にマコモタケの料理レシピを本にしたい、またゴザなどの加工品をどんな商品化等今後の目標を語られました。



真菰栽培は、それなりに手も掛かるようですが、休耕田の活用には適していると思ひますし、もっと手のかからない紫菊芋の栽培も併せて取組まれており、棚田100選に選ばれた山王寺の棚田の景観を守っていききたいという熱意が感じられました。

儲かる農業は大事ですし、できるところは挑戦して欲しいと思ひています。しかし広い面積が確保できないところでは難しく、水田園芸だけでは中山間地域の農地は守っていけないと思ひます。



どに反映されていないのが残念です。県として何ができるのか、考える時にきていると思ひます。

真菰を使った加工品として、真菰茶、真菰パウダー、バスソルトなどを商品化し、真菰の葉で円座やゴザも作っている、出雲の真菰は特別とされ、茅の輪やしめ縄等神事にも使われる、食料としても根にできるマコモタケは中華料理、フレンチやイタリアンのレストラン、蕎麦屋や天婦羅屋で使われている、といったお話を聞かせてもらいました。

今、国を挙げて儲かる農業として水田園芸が推奨されており、県内でもできるところは取組が広がっています。もちろん

もちろん主食であるお米、しかも地元のお米を食べることを、保育所や学校、高齢者施設などに推奨することも消費拡大としてやっていかないといいません。



食料自給率がどんどん下がっていく日本は、戦争や感染症で輸入がストップしたら生きていけなくなりそうです。何とか農地を守っていく方法がないのか、真菰や菊芋栽培を含め、様々な方法を探ってみたいと思ひています。

# 5期目最初の県政報告会

## ゲスト石橋通宏参議院議員による国政報告

選挙後初めての県政報告会を開催しました。

今回は初めて石橋通宏参議院議員をゲストにお招きし、昨今の国会情勢を話してもらいました。

以前も報告しましたが、石橋議員は島根県出身で安来市生まれ、その後は松江市で内中原小、松江一中、松江北高を卒業なので、一中、北高は同窓です。そんなご縁で一中卒業生会長を務める私は、是非一中の生徒に石橋議員の話聞いてほしいと思います、一昨年講演をしていただきました。

今回はそれに続く松江での講演として、国会報告をしていただきました。やはり生で聞く国会の様子はとても意義深いと改めて感じました。

今回はそれに続く松江での講演として、国会報告をしていただきました。やはり生で聞く国会の様子はとても意義深いと改めて感じました。



初めて思いました。テレビで時々石橋議員の質問を見聞きしますが、その鋭い突っ込みと気迫にいつも喝采をしています。

常日頃から「人を大事にする政治」を進めて行こうと奮闘されている石橋議員の活躍を応援しています。皆さんも機会があれば是非国会中継をご覧になってください。

私からは、4月の選挙戦やその後の県議会の様子、今後の活動方針などを報告しました。4期16

年間培った経験や人脈を生かし、人口減少に苦しむ島根県が「持続可能な地域」、県民のみならず住み続けられる場所に、願わくは美しい自然と人々の営みが生み出す豊かな食や自然環境を守り、若い人にも魅力的な地域になるよう力を尽くすと決意を述べました。

次の日は、県職連合組合と石橋議員との意見交換会でした。内容は、①地域給の廃止の可能性②地方公務員の人員・人材

確保(特に専門職)③会計年度職員の処遇改善④地方公務員の定数増、以上4点2時間にわたっての意見交換は大変充実したものになりました。

近年志願者数が減っており、その背景には転勤がなく、給与も県より良い市町村に人が流れていることや、会計年度任用職員は正規職員と同じ仕事をしているのに処遇は悪く、都合よく使われているといった現状を受けて止めて頂いたと思います。

石橋議員からも是非定期的に、と仰っていたいただきました。組織内の岸まき議員共々地方の現状をもっと知ってもらい、国会で取り上げて頂けるようこれからも、このような意見交換会を開催していこうと執行部と話し合いました。



フォード大学のロジャーリード教授。航空機産業モーター産業プロジェクトの2本の研究と人材育

成プロジェクトとしてオックスフォード大学のウェブ授業や学生派遣がすでに

行われており、今後は大学院等を設置し、世界で活躍するエンジニアの育成と県内関係企業への就職の流れを作るといふ3本のプロジェクトが取り組ま

れつつあります。人材育成では、中学高校生のNEXTA見学や学部生、高校生合同の英語での講義(ケンブリッジ大学ライ教授)が行われており、中高生にも大きな刺激になると思います。

次世代たたら協創センター

# 島根から世界に挑む

8月8日、総務委員会の調査に地元議員として同席させていただき、島根大学でスタートした次世代たたら協創センター(NEXTA)の現時点の説明を受け、見学をさせて頂きました。



島根大学の考えとしても、県内からの志望者が増やしたいお考えがあり、地域志向入試(へるん入試)や総合型選抜を行って、増加傾向ですが、県内就職者の増加がないのが課題とのことでした。

県内企業がこのような高度な内容の学部生を受け入れることができるのかも課題ではないかと感じました。大学側も県と一緒に産学官一体となった地域連携プラットフォームを作っていくこととされていますので、今

後に期待しています。今年度が学部初年度でしたが、入試では女子学生の割合が25・9%(全国平均15%)と聞いてちょっとビックリでした。説明によると高校生に向けた英語での講義をされたライ先生(女性教授)がロールモデルになっているのでは、ということでした。

どの分野でも女性の先達がいることがとても重要だと改めて思ったところです。

私は、司書資格を持ち、かつて図書館司書を目指した経験から、議員になった時から図書館に関して質問を重ね、「人のいる学校図書館」を実現させるための予算を獲得、県内の全ての小中高特別支援学校で実現することができました。

数年前、国が学校司書を置くことを義務化したため、交付金が付き、二重の予算措置になるとして県の予算が削られそうになりました。しかし、国の交付金は普通交付金であり、

い工夫がされています。雑誌はスポンサー制度で、市内の企業がスポンサーとなりお金を出しているとのこと。

そして「手話による絵本の読み聞かせ」リサイクル工作教室「機織り体験」「図書館会談会」「夏休み企画 メダカの世界」等多様なイベントが企画されています。

また、講演会やロービジョン(視覚障がいのある)の方との交流会、LGBTQ関係や地元出身者によるイベントも行われるそう、確かに多様な人が本を読まなくても来なくなる図書館だなと感じました。

今松江市立図書館は改修中ですが、改修後どのような図書館になるのか、そして島根県立図書館は県下の公立図書館とどのような協力体制をとっているのか、今度はお膝元の県立図書館との意見交換をしようと思っています。

# 本を読まなくても行きたい図書館

## 境港市民図書館を見学

松江市の小学校司書会の皆さんとは日頃から交流があり、6月の司書会で「境港市民図書館がすごい。色んなところから視察に来ていたよ」と話になり、話題になりましたので、司書会から出された①本を読まなくても行きたい場所になっている②多様な利用者への対応として、全ての人が快適で

また、改修に当たっては2年間鳥取県立図書館から支援課長が出向し、プロデュースされたこと聞き、さすが鳥取県、力の入れ方が違うと感じました。

予算的には境港市に美保基地があり、

安心してサービスの内容③学校図書館支援の内容、について図書館へ行き、聞いてみました。

改修後も1年を迎える、新しく居心地のよさそうな図書館でした。開放的で、一面のガラス戸の外にはベランダがあり、イベントも行われます。館内160席のソファでは、子どもからお年寄りまで様々な方が思い思いに新聞や雑誌、書籍を広げておられます。

学習や仕事ができるスペースにはWiFiが飛び、グループワークができるコワーキングスペースもあります。児童書のコーナーは、赤ちゃんのベッドや小さい子どもが遊べる場所があり、低い書架には手に取りやすい

自衛隊からの予算も入っているため、防災拠点になり、自衛隊関連のコーナーもあり、自衛隊が前面に出ている訳でもなく、そういう意味では地の利、ともいえるかなと思います。また市民図書館としては珍しく、市民でなくても登録すれば本を借りることができると聞き、早速松江市民の私たちも登録して借りました。



# まだまだ課題が残る学校図書館

紐づけがないので必ずしも司書を雇用することにはなりません。司書の皆さんに大きな動揺が広がりましたので、小中学校の司書会の皆さんから、生徒のためにしている仕事の内容や、司書の必要性を教育長に話していただきました。その結果、県の予算は確保され「学びのサポーター」として、改めて位置づけられましたが、まだまだ問題はたくさんあり、これからも取り上げていこうと思っています。